

# 平成 1 7 年度収支決算報告

( 平成 1 8 年 3 月 3 1 日 現在 )

収支決算について

収支計算書

正味財産増減計算書 ( 財産増減事由書 )

貸借対照表

財産目録

監査報告書

## 収支決算について

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

公益法人会計基準に準拠した、会計処理に務めた。

一般会計と特別会計を総括した総括表の収支についての要点は以下のとおりである。

### 1. 収入

#### 1) 入会金収入

国公立単科、私立単科、私立総合はそれぞれ1、個人会員は10の入会があり、収入額は17万円であった。

#### 2) 年度会費収入

年度会費収入額は、23,300,000円（納入状況の内訳は下表）であった。尚この収入には過年度分年度会費収入170,000円が含まれる。

	国公立総合	国立単科	私立総合	私立単科	短期大学	個人
会員数	55	23	96	139	87	51
納入	54	22	93	135	83	49
未納	1	1	3	4	4	2

#### 3) 賛助会員収入

賛助会員の入会が4あり、200,000円であった。

#### 4) 事業収入

教材ビデオの販売は1本あり38,500円、刊行物の実費頒布については32,390円であった。

#### 5) 預金利息収入

8,715円の利息であった。

#### 6) 広告収入

機関誌等に広告を行い、20,000円であった。

#### 7) 繰入金収入

一般会計から特別会計に繰り入れた（「特別会計」の収入）もので、予算額に比して50万円弱の減となっている。

#### 8) 当期収入

以上の結果、決算時点における当期収入合計は24,153,557円となり、予算額に比して52,613円の増となっている。

#### 9) 前期繰越収支差額

前期精算（前年1月31日現在）時点で見積もった予算額に比して、52万円余の増が当期に繰り越された。

## 2. 支 出

### 1) 運営費・一般運営費

「一般運営費」は、予算額に比して 38 万円余の支出減となった。

人件費は、6 万円余の支出減となった。監査費の減がその主な内容である。

顧問報酬費、会議費、賃貸費、消耗品費、図書費、水道光熱費、雑費は、ほぼ予算内で執行した。

理事会、総会費は 1 万円余の支出超となった。

旅費交通費は、12 万円余の支出減となった。支部長会を中央研修会最終日に行い、本部役員の宿泊費が減したことが主な内容である。

慶弔費は、2 万円余の支出超となった。以前に役員を務められた 3 氏が逝去され、葬儀に際して生花を供えたことによる。

印刷製本費は、9 万円余、通信運搬費は、3 万円余の減となった。A3 印刷、メール便を使う等節減に努めたことによる。

備品費は、記録写真作成等のためデジタルカメラを購入した。

### 2) 事業費・一般運営費

「一般運営費」は、予算額に比して 119 万円余の支出減となった。

機関誌については、当期は「大学体育」2 つの号を発刊予定であったが、16 年度末発行分を当期に初めに支出したため 9 万円余の支出超となった。

論文誌については、「大学体育学」1 つの号を発刊したが、267,000 円の支出で済み予算額に比して 28 万円余の支出減となった。

会員増強費は、新入会員補充のために設けた科目であり、33 万円余の支出をした。

図書刊行費、体育指導教材費、事業運営雑給費、消耗品費、雑費については、ほぼ予算内で執行した。

会議費は 2 万円余、旅費交通費は 7 万円弱、通信運搬費は 20 万円余の支出減となった。メールによる連絡、打ち合わせ等が増え支出を抑えることができた。

FD 評価関係費は FD 表彰校が少なかったため 38 万円弱の支出減となった。

教材フィルム作成費は、ビデオ教材の販売が 1 本であり 20,500 円の支出となった。

表彰関係費は 10 万円余、印刷製本費は 4 万円弱、図書費は 4 万円余の支出減となった。

ホームページ作成費はホームページのリニューアルを行ったため 28 万円余の支出超となった。支出超分は予備費からの流用することになっていたが、中科目一般運営費の予算内で収まるため流用しなかった。

シンポジウム開催費は、日本体育学会の企画となったことと、支出削減の努力により 30 万円弱の支出減となった。

### 3) 事業費・研修事業費

「研修事業費」は、予算額に比して 1 万円余の支出減となった。

研修会補助金支出、研修会調査準備費は、予算の通りに執行した。

印刷製本費は研修会資料の印刷においてカラー印刷が含まれていたため、3 万円余の支出超となった。

支援補助金は、5 団体にそれぞれ 10 万円を交付した。

### 4) 事業費・研究調査費

「研究調査費」は、予算額に比して 17 万円余の支出減となった。

研究助成費は、3件にそれぞれ20万円を助成した。

印刷製本費は、当期は調査用紙を増刷したこと等により3万円余の支出超となった。

検討会議費、通信運搬費、消耗品費、研究調査雑給費、図書費の残は経費節減に努めたことによる。

5) 事業費・支部補助金

予算額のとおり、各支部へ補助金を交付した。

6) 事業費・国際交流費

「国際交流費」は、ほぼ予定通りに支出した。

国際会議費は、ICHPER・SDの年会費に係わるもので24,550円を支出した。

7) 繰入金支出

一般会計から特別会計に繰り入れた（「特別会計」の収入）もので、予算額に比して50万円弱の減となっている。

8) 当期支出

以上の結果、当期支出合計は22,463,963円となり、当期支出予算中の予備費を除いた支出合計額24,704,944円\*に比して2,240,981円の支出減となっている。

\* 当期支出予算 37,000,944円 - 予備費予算 12,296,000円 = 当期支出決算 24,704,944円

3. 当期の収支差額と次期への繰越額

1) 当期の収支差額

当期収入合計額は24,153,557円、支出合計額は22,463,963円で、1,689,594円の当期収支差額となった。当期は604,000円の支出超の予算であったが、2,240,981円の支出を削減することができたために、160万円を超える収支差額となった。

2) 次期への繰越額

次期への繰越額は15,112,660円となった。「精算報告」(1月末日現在)では、次期への繰越額は13,470,000円と見積もったが、1,642,660円の増となった。

繰越額が精算時点における見積額を上まわったのは、収入では会費収入と賛助会費収入等により34万円余の増があったこと、支出では「運営費・一般運営費」の見積額に比して36万円余、「事業費・一般運営費」の見積額に比して80万円余の残、研究調査費が当初予算に比して7万円弱に抑えることができたこと等による。

本連合の安定運営のためには、年度会費の納入時期と第1四半期の事業遂行との関係から、約7,000,000円の繰越額が確保される必要がある。

以 上